



## 安全データシート(SDS)

## 1. 化学品(製品)及び会社情報

化学品(製品)の名称	改質アスファルト混合物(コーラルカラー)
供給者の会社名称	株式会社 七和 西原工場 〒903-0103 沖縄県中頭郡西原町小那覇1023
連絡先	電話番号: 098-945-0288 FAX番号: 098-945-0289
会社名(製造元)	株式会社 七和
住所	〒902-0067 沖縄県那覇市安里381番地2
推奨用途及び使用上の制限	道路舗装用途

## 2. 危険有害性の要約

※アスファルトは取り扱い時の状態(液体状態もしくは固体状態)によって危険有害性が大きく異なるため、ここでは条件による危険有害性を明記する。

## 【加熱溶融時(液体状態)】

特有の危険有害性 通常は道路舗装用材料として高温状況で使用するので以下の点に特に注意する。

1. 皮膚に接触するとやけどするので注意する。

## GHS 分類

(加熱溶融時及び常温固体の場合)

急性毒性(経口):	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
急性毒性(経皮):	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
急性毒性(吸入):	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
呼吸器感作性:	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
皮膚感作性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
生殖細胞変異原性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
発がん性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
生殖毒性:	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
特定標的臓器毒性, 単回 ばく露:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
特定標的臓器毒性, 反復 ばく露:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
吸引性呼吸器有害性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
水生環境有害性(急性):	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
水生環境有害性(長期間):	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
オゾン層への有害性:	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)

## GHS ラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	なし

危険有害性情報	現在のところ有用な情報なし
注意書き	なし
安全対策	なし
応急措置	なし
保管	なし
廃棄	国/都道府県/市町村の法令に従って廃棄すること。

※GHS分類から導かれる上記注意書きに記載がない場合でも、本SDS4～8章を参考にし安全対策/応急措置/保管/廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

国内外の情報に関しては「14. 輸送上の注意」「15. 適用法令」を参照すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名または一般名	改質アスファルト混合物(コーラルカラー)
別名	Petroleum Asphalt ,Bitumen
成分および含有量	改質アスファルト(メイブライトA) 約5.1～6.7% 顔料(チタンホワイト 酸化チタン) 約0.2～0.25% 碎石、砂など天産物 約95%
化学特性(化学式)	特定できない
官報公示番号	非公開
CAS 番号	非公開
労働安全衛生法	第57条の2 通知対象物質 鉱油

化学名又は一般名	重量%	化学式	CAS No.	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
改質アスファルト(メイブライトA)	約5.1～46.7	特定できない	非公開	非公開	非公開
顔料(チタンホワイト 酸化チタン)	約0.2～0.25	TiO <sub>2</sub>	13463-67-7	1-558	1-558
豆バラス(13-8)	約41～69	特定できない	天産物	—	—
豆バラス(5-0)	約19.5～34	特定できない	天産物	—	—
白砂	約9.5～22.5	特定できない	天産物	—	—

※混合物の種類によってそれぞれの配合割合は異なる。

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし、天産物

労働安全衛生法 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号第168)(鉱油)

#### 4. 応急措置

<b>吸入した場合</b>	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等で覆い、保温して安静を保ち、直ちに医師も手当てを受ける。 呼吸が止まった場合及び呼吸が弱い場合は、衣服を緩め、呼吸気道を確保したうえで人工呼吸を行う。
<b>皮膚に付着した場合</b>	大量の水でヒリヒリしなくなるまで冷やし、皮膚に付着したアスファルトは取り除かず、医師の手当てを受ける。
<b>眼に入った場合</b>	清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。
<b>飲み込んだ場合</b>	無理に吐き出さずに、速やかに医師の診断を受ける。口内が汚染されている場合は、水で十分に洗うこと。
<b>急性症状及び遅発性 症状の最も重要な兆候</b>	飲み込むと、下痢、嘔吐する可能性がある。 目に入ると炎症を起こす可能性がある。 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。
<b>応急措置をする者の保護</b>	現在のところ有用な情報なし。
<b>医師に対する特別 注意事項</b>	現在のところ有用な情報なし。

#### 5. 火災時の措置

<b>消火剤</b>	霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
<b>使ってはならない消火剤 特有の危険有害性</b>	棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。 現在のところ有用な情報なし。
<b>特有の消火方法</b>	火元への燃焼源を断つ。 周囲の設備等に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
<b>消火を行う者の保護</b>	消火作業は風上からおこない必ず適切な保護具を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

<b>人体に対する注意事項</b>	作業の際には保護具を着用する。
<b>環境に対する注意事項</b>	下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。
<b>除去方法</b>	全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立入りを禁止する。 少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させる。 大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆いながら容器に回収する。 室内で漏出した場合は、窓・ドアを開け十分に換気を行う。
<b>二次災害の防止策</b>	漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。 消火用器材を準備する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

炎、火花または高温体との接触を避ける。

#### 安全取扱注意事項

熔融時は高温であるため、火傷をする恐れがあるので、作業中は手袋、その他保護具を着用すること。

火気注意。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

眼に入れないこと。

空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

**接触回避**  
**衛生対策**

『10. 安定性及び反応性』を参照。  
扱い後はよく手を洗うこと。

#### 保管

**混触禁止物質** 情報なし  
**安全な保管条件** 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。  
**安全な容器包装材料** 耐熱容器を使用すること。

### 8. ばく露防止及び保護措置

**管理濃度** 設定されていない。

#### 許容濃度

(ばく露限界、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会(2015) 3mg/m<sup>3</sup>(鉱油ミストとして) 1)  
ACGIH(2012) TLV-TWA: 5mg/m<sup>3</sup>(鉱油ミストとして) 2)

**設備対策** 屋内等にて高温で取扱時に、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

#### 保護具

**呼吸用保護具** 必要に応じて適切な呼吸器保護具を使用すること。  
**手の保護具** 保護手袋等を着用すること。  
**眼の保護具** 必要に応じて保護眼鏡等を着用すること。  
**皮膚及び身体の保護具** 必要に応じて保護衣、保護面等を使用すること。

### 9. 物理的及び化学的性質 (改質アスファルト(メイブライトA)として)

**外観(物理的性状、形状、色)** 固体、褐色  
**臭い** 臭気あり  
**臭いの閾値** 情報なし  
**pH** 情報なし  
**融点・凝固点** 情報なし  
**沸点、初留点及び沸騰範囲** 初留点 250°C以上(推定)  
**引火点** 250°C以上(C O C)  
**発火点** 情報なし  
**蒸発速度(酢酸ブチル=1)** 情報なし

燃焼性(固体、気体)	適用されない
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度(空気=1)	情報なし
比重(密度)	約1g/cm <sup>3</sup> 以上(15°C)
水に対する溶解性	不溶
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度(発火点)	320°C以上(推定)
分解温度	情報なし
粘度(粘性率)	情報なし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	安定である。
安定性	通常の保管および取扱いの条件においては安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触はさける。
避けるべき条件	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。
危険有害な分解生成物	燃焼により一酸化炭素等が生成される。

## 11. 有害性情報

<b>急性毒性</b>	
経口	ラット LD50>5000mg/kg 3)
経皮	ウサギ LD50>5000mg/kg 3)
吸入(蒸気)	データがなく分類できない。
吸入(ミスト)	ラット(4h) LD50=5mg/L以上 3)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚刺激性に区分する情報はない 3)。ただし長期間又は繰り返し接触した場合には、皮膚脱脂による皮膚炎を起こす可能性があるため注意すること。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	眼刺激性に区分する情報はない(3)。場合によっては眼を刺激する可能性があるため注意すること。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:ヒュームや蒸気を吸い込んだ場合は軽度の感作性がある 3)。皮膚感作性:情報なし 3)。
生殖細胞変異原性	生殖細胞変異原性を示す情報はない 3)。
発がん性	APIでは石油芳香族エキストラクトをDAE(Distillate Aromatic Extracts)とRAE(Residual Aromatic Extracts)に分類し、RAEについては発がん性を示す記載はない 4)、また、EU(Concawe、ECHA)による評価でも発がん性としての分類は適用される必要はない 3) 5)。

生殖毒性 情報なし 3)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 情報なし 3)

吸引性呼吸器有害性 情報なし 3)

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性(急性) 有害性なし 3)

水生環境有害性(長期間) 有害性なし 3)

### 残留性・分解性

即時的には期待できないが、最終的には生物分解されると期待されている 3)。

### 生体蓄積性

生物濃縮する可能性を備えた成分を含んでいるが詳しい情報がない。

### 移動性

一般的には水に対して浮く性質がある。

類似基油のlog Kocは3以上と推測され、地表で漏出した油は土壤に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。

### オゾン層への有害性

モントリオール議定書、オゾン層保護法等の規制対象物の使用はなく区分外と判断する。

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

### 国内規制

陸上規制 道路交通法、非危険物

海上規制 船舶安全法、非危険物

航空規制 航空法 非危険物

国連番号 該当しない

### 特別の安全対策

その他法令の定めるところに従う

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	通知対象物
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制
道路交通法	

## 16. その他情報

### 引用文献

- 1) 許容濃度の勧告(2015) 日本産業衛生学会 産業衛生学会誌
- 2) IACGIH(2012)
- 3) ECHA(2011)
- 4) API(2003)
- 5) Concawe(2005)

### その他の参照データ

- ・化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂4版, 国際連合, ニューヨーク ジュネーブ(2011)
- ・日本規格協会 JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- ・同上 JIS Z 7252::2014「GHSに基づく化学品の分類方法」
- ・独立行政法人 製品評価技術基盤機構(nite)「GHS関連情報」
- ・経済産業省 化学物質排出把握管理促進法サイト
- ・厚生労働省 医薬食品局「GHS対応ラベルおよびSDSの作成マニュアル」
- ・厚生労働省 職場のあんぜんサイト「GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報」

製品安全性データシートの記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有物・物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。記載内容は情報の提供であって、保証するものではありません。